

第5回肝臓病教室

このたび、第5回肝臓病教室が平成23年2月4日に開催されました。今回も27名の受講者にお越しいただきました。今回の肝臓病教室のテーマは「肝硬変Ⅱ」です。昨年の肝臓病教室でも「肝硬変」を取り上げましたが、ご好評いただきましたので、今度、さらに内容を充実して開催いたしました。

まず、原医師より「肝硬変－発癌抑制をめざして－」について講演がなされました。

肝硬変症にみられる自覚症状は黄疸、皮膚のかゆみ、こむら返り、お腹の張りなどがあります。そのような症状の早期発見には定期的な検査（超音波検査、腫瘍マーカー、CT、MRI検査、上部消化管内視鏡）を受けることが大切であると話されました。



また、アルブミン値が低下すると肝機能の予後が悪くなるため、アルブミンを増加させる薬「リーバクト」を欠かさず服用することの有効性を話されました。加えて、肝発癌になった場合の治療、外科的、内科的（経カテーテル治療、経皮的局所療法）などが紹介されました。

次に、岩本看護師より「肝硬変Ⅱ～検査前の食事と日常生活について～」と題し講演がなされました。

腹部のCTやエコーを受ける場合、21時以降、絶食をしていただくことがあります。肝硬変では長時間の絶食はよくないため、就寝前や早朝に食事をしてもらうことがあります。その場合、主治医から説明がありますので、指示に従い検査を受ける必要があります。



また、日常生活にウォーキング（歩行）を取り入れる工夫や注意点が話されました。階段の使用や万歩計を携帯し目標を決めることでウォーキングを継続しやすくなること、そして、ウォーキングの前には軽く、ウォーキングの後には十分食事を取るよう説明されました。

続いて、堀江検査技師より「肝硬変の検査～超音波検査について～」の講演がなされました。

超音波検査について例えを用いてわかりやすく説明されました。エコーの利点は、手術をせずとも体の中を確認することが出来るので痛みを伴わないことやX線とは異なり安全に受診出来ると話されました。エコーを利用した治療の一つとしてラジオ波照射療法を紹介されました。



さらに、中村放射線技師から「肝硬変の検査～CT検査について～」と題して講演がなされました。

特に造影剤を使用したCT検査について説明され、CTの検査で造影剤を使用することで、より小さい癌などの腫瘍を早期に発見することが可能になることを話されました。検査後は、水分を多めにとることが求められる程度で、通常通りの生活をする事が出来るとのことです。



最後に、田中栄養士から「夜食のすすめ～就寝前補食について～」の講演がなされました。

肝硬変の場合、長時間空腹を続けると飢餓状態となるため、就寝前の夜食の摂取を勧められました。夜食としてBCAA（分岐鎖アミノ酸）を補充することができるアミノレバンを紹介されました。肝硬変の場合、肝臓の代わりに筋肉中のBCAAがアンモニアの解毒やエネルギー源として使われるためです。



消化器肝臓病センターでは、定期的にさまざまなテーマで肝臓病教室を開催していく予定です。今後の予定につきましては、院内掲示や当院のホームページでご確認下さい。